



# 小田又の記

vol.01  
2014.10発行



島根県益田市美都町にある小田又<sup>こだまた</sup>という名の集落。この地を軸に暮らす人たちのドキュメント。

小田又集落を通り過ぎ、軽自動車ややっと通れるほどの細く曲がりくねった山道を進んでいくと、どんつきに大田又<sup>おのだまた</sup>という集落がある。2013年の冬のはじめ、雪が降り始める頃までひとり大田又に残って暮らしていた斉藤義雄さん(93歳)。益田の市街地に義雄さんが移住したことで、集落に住むものはいなくなった。義雄さんの暮らしていたご自宅まで足を運んでみると畑作業中の息子さん、斉藤秀憲さん(58歳)にお会いすることができた。若い頃に大田又を出て、現在、義雄さんとはご近所暮らしをしている。生まれ故郷であるこの地に足しげく通い、荒れた田畑を再び開墾する。天気の日には父親の義雄さんを大田又に連れてきて、静かな二人の時間を過ごしている。



製作・取材・編集 佐原宏臣  
取材・イラスト 佐原晃子

〒698-0203 島根県益田市美都町都茂 1906-3  
TEL 090-6545-3830 FAX 0856-52-2829  
メール saharach2006@gmail.com

秀憲：あんたがたばこつくったこと  
があるでしょう。

—— 義雄さんのお父さんはどういう農業をやっていたんですか？

義雄：ここで田んぼやっておった。

—— そんな昔から。

義雄：やっておりましたよ。この辺みんな田んぼだったんだもの、向こう側も(眼下に広がる谷を指して)。

秀憲：炭窯があちこちにあった。もう朽ちているけれど。

—— 田んぼやりながら、木を切って炭を作って、炭を町の人に売って。

義雄：炭かね。それは組合に出しよった。

秀憲：森林組合。

—— お生まれになった大正10年、1921年とはどういう時代だったんでしょう。

義雄：人はヨウケ[たくさん]おりましたよ。そこにも家がある、こっちにも家がある。こっから見えるところにも2件くらい。子どもヨウケおりましたよ。仲良し会って言うてね、子どもが集まるの、いっぱい寄り合います。都茂奥<sup>つも</sup>だけで。—— 都茂奥<sup>つも</sup>って言うのと…。

秀憲：都茂奥は小田又、大田又。

—— 子供会的な集まりが義雄さんの子ども時代からあった？

義雄：小田又でなく、大田又だけの…

—— …子供会があったんですか？

義雄：小田又は家が少ないが大田又は多いかった[多かった]。家を回って、まわり講で、お菓子を食べたり。

秀憲：その家が当番で子どもにお菓子作ったりするん？

義雄：そうそう、まわり講で。こどもはヨウケおりましたよ。向こうの方、杉が植わつとル、あれ、みんな田んぼじゃったけ。

—— それじゃあもっと見晴らしがよかつたんですね。

義雄：見晴らしはよかつた。

秀憲：今とは全然違う。もうちょっと上がったところは、畑からだったら水平線がポチポチッと見えて。

—— 水平線！

秀憲：夏だからイカ釣りの漁船がランプつけるじゃないですか、だから、それがザーッと夜に写るからすごいきれい。そ



の印象が…今でも上がったら水平線が見えるんだけど、あのクルミの木が大きくなって目の前に…。

**義雄**：いま、雪がふらんようになりよったけど、昔はようけ降りよりましたよ。一晩に60cmくらい。歩くのもやれん。六尺くらいの板を敷いてね、あの、下まで（遠くに見える細い道を指して）出るんじゃ。そうしたら、ヨウケ子どもおるけえね、道があくんじゃね。子どもの（歩いた）溝で通路ができる。そこまで板を敷いてその上を歩いた。はまり込むけえ。そりゃあまあ、長いこと〔期間〕じゃないがね。

—— この山奥に全部で1町歩（1ha）近くあるという、たばこをやり出すきっかけはなんだったんですか？

**義雄**：とにかくたばこを吸う人が一番多かった頃じゃ。

**秀憲**：小学校の時あんたがここで薪をくべたりするのを覚えとるけ。この土壁が最初のたばこの乾燥部屋。あちこちに、まだ残っとるところがあるけど。—— 乾燥までやるんですか？

**義雄**：ここに穴を掘って薪を焚きよった。

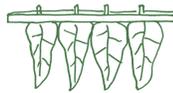
**秀憲**：オヤジはここへ寝て、ずーっと火の当番しよった。薪が切れないように。

あんた、夏にここで寝よったろ？

**義雄**：何日掛かりよったかな。おおかた一週間くらい掛かるね。

**秀憲**：畑から収穫してはここで乾燥してそれを束ねてとつといて、で、秋口にそれを全部選別して出すと。

**秀憲**：土壁の方（最初の乾燥機）は1枚1枚釘に刺して吊して、昔の機械だから1枚1枚葉っぱをとって、あれは木のようになってるけど下の葉と上の葉と全然違うんで、わけて採る。下の葉は下の葉



**義雄**：一枚ずつ採るんです。胴葉、中葉、合中、本葉、天葉って。

**秀憲**：下から段々熟れていくんで。

**義雄**：胴葉、中葉、合中、本葉、天葉。**義雄**：うえ上がるだけニコチンがひどくなるんじゃ。

**秀憲**：ピースやはら上の方。

**義雄**：天葉なんちゅうのはニコチンがひどい。かなり大きい葉ですよ（手で示す）。**秀憲**：茎が親指くらいあるから。茎がね、ポキッと折れる。痛くないよ。

—— それは奥さんも一緒にやってたん

ですか？

**義雄**：うん、いっしょにやりよった。

**秀憲**：まあ、私らも手伝ったり。

**義雄**：子どもを雇うて。

—— お菓子渡して？

**義雄**：お金払うの。ちょうど夏休みだったからね、子ども喜んでくるんじゃ。—— 息子さんにもお駄賃払ってました？

**義雄**：どうだったかな（笑）。（写真を指して）家の下に田んぼがあつて…。

**秀憲**：そんな昔じゃないですね（田んぼをやめたのは）

—— 義雄さんこんな最近まで田んぼがんばってたんですね。

**義雄**：うん。いつまでやってたんかな。とにかく猪がでてやれんけ、やめたんじゃ。

—— 棚田ですね。そのうち息子さんが復活させるんじゃ？

**秀憲**：（笑）

—— ここは山の一番上ではないですよ

ね？**義雄**：一番上ではないですが、もうちょっと上がったとこが（頂上です）。山の向こうに、又一つ部落があるんじゃケ。そこに（クルミの木の下の指して）道があつ

てね、ここに出よります。山を越えて。都茂の小学校へ通いよったんじゃ。

—— 義雄さん1921年だから何歳？

**秀憲**：だから93になる。

—— 戦争は？

**義雄**：戦争行きましたよ。5年はいました。中国、北辰の方から中国いっぱい回りました。帰ったのが26。それまで中国におりました。

**秀憲**：本部づきで通信兵を。

**義雄**：軍隊で、21才で行つて。

**秀憲**：オヤジは呉の海軍工場へ行つておりました。戦後は広電。電車の運転手。少し電車のつてたんじゃない。戦争から帰つて。

**義雄**：広島電鉄の呉です。呉の市電。—— 大田又と呼び戻されて帰つてきたのは、人手が必要だったってことですか？

**義雄**：そうですね。まだオヤジの時にはたばこなんて作ってなかった。まあ、長男じゃけね、どうせ農業せにゃあしよーない。

—— その戦争の最中の話、思い出したら、嫌なことと良いことと、いろいろありました？

（間）

**義雄**：いやなことばかり。

—— 話すのが嫌だったら話さないでも結構です。話せることがあつたら…。

**義雄**：いや、別に。やっぱり、弾が来るところに出るんじゃけね、ええはなしじゃない。（間）とにかく中国じゃけ、マラリア、あれが誰もが1回くらいかかるんじゃ。あれでまいった人が多いね。マラリアの予防薬があるんじゃが、これを

飲むとね、胃腸をやられるんじゃ。それで体を弱らせて亡くなった人が多いんじゃ。蚊帳なんかない、蚊がいっぱいおるけ。それで何か、煙を出してね、蚊の予防をしようたけどね。それでも全体に行きわたらんけ、やっぱりマラリアになった人が多いね。蚊がいっぱいおるから、何かボロを崩して煙を出すんじゃ。それくらいしかできません。

—— ずっと中国中を野営して回つたということですか。…戦争から戻つてきてやっぱり呉に行つたわけですよ

**義雄**：弟がおつたけえね。弟がおつたが、弟はとにかく鉞や、手仕事はやるがね、牛をつこうてはあわん〔使うことができなかった〕。そういうこともあつて戻つてこいつてことになった。

—— たばこはじめたのはご自身ですよ

ね。**義雄**：山を開墾するために補助金が相当出るからね。

**秀憲**：山、山。

**義雄**：全部山だったんです（笑）

—— 当時、この辺、都茂地区では鉾山とかで賑わいはある。

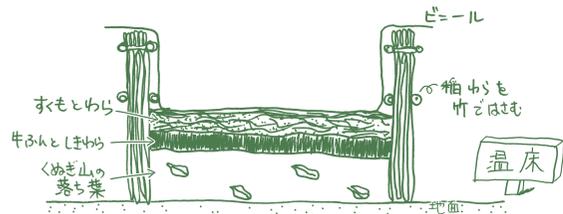
**秀憲**：自分らの時は子どもも多いかつた〔多かつた〕し、鉾山の宿舎もいっぱいあつて山形とかいろんなどこから人が出稼ぎに、鉾山住宅つて言つて、いっぱいあつたけえ。

—— 段々と現金がいるような時代になつてきたということですかね。昭和40年代以降。じゃあ、たばこやろうつて先に決めて開墾をはじめたつてことですね。いきなり開墾したような土地でもたばこは育つんですか？

**義雄**：開墾したような土地がええんじゃ。病原菌がないから。連作すると端から病気になるようになる。予防せにゃあ、やれんようになる。じゃけ、たばこ畑でたばこを吸われんのね。

—— どういうことですか？

**義雄**：バイラスつていうたばこの病気があるんじゃが、たばこ畑でたばこを吸うとそれがドーッと広がるんじゃ。たばこの葉っぱに模様がつく。そしたら商品価値がなくなる。畑でも吸うのは吸うがね、道路へ出て吸うのよ。畑の中じゃあ吸わん。ヨウケ広がるけ。



—— たばこの仕事、一番最初は何からはじまるんですか？

**義雄**：温床おんしょうですね。何月頃じゃつたかな。**秀憲**：温床もそうじゃけど、専売公社から種をもらうんじゃろ。

**義雄**：班長さんがそれを持って回つて種を蒔いてまわるんじゃね。品種は専売公社があれするんで、こつちには分からん。いろいろあるんでしようがね、専売公社がこの地方はこの種つて決めとるんじゃね。じゃけ、九州の方とここのほうは違ひよつたけ。

**秀憲**：温床作つて。温床もこれだけのたばこだから広い。くぬぎ山から落ち葉を

全部集めて、かなり踏みつめて下に全部敷いて、その次何かいね？柴の上は牛の堆肥？

**義雄**：そうそう、牛の堆肥。

**秀憲**：その上はスクモ？

**義雄**：スクモとか藁。専売公社が指導するんじゃ。たばこの先生つていうのがまわつてきてね、指導してまわりよつた。都茂に一人旅館におつてね、それが順繰りに部落まわりよつた。

—— それじゃあ、発酵する熱だけで

**秀憲**：あと、ビニールかけて。牛は堆肥を作ってくれるから。それを温床に利用する。他は子ども産ませて子どもを出荷する。じゃけ、雌牛を飼つて2年くらいで出すのかな、じゃけその収入と堆肥。—— たばこだけじゃない訳ですね

**秀憲**：牛はずーっと昔から。

**義雄**：年をとると使うのに動作がとろくなるんで。それを馬ばくらう喰くうてね商売にする人がおるんじゃ。この部落にもおりましたよ。この山ひとつ向こう。牛馬商、つていうがこの辺は牛ばかり。—— その人が種牛を持ってて種をつけに来る。

**義雄**：いやいや、それは自分でやるんじゃ。その人は若い牛を連れてきて古い牛と交換して、古い牛は市へ出して儲けるん。

—— お金を払つて？

**義雄**：お金をもらうことはないです。出すばかりで。



—— …たばこ栽培をやつて一番大変だったことで、思い出すことありますか？

**義雄**：一番大変だったつていうのは…そうですね…まあ、たばこ吸われんわね。たばこやらにゃヤレンのよ。（笑）

2014.07.11 録音

【表紙の虫】オオヨコバイ（大横這）  
いろいろな植物の茎に口吻（こうぶん）を刺して汁を吸う害虫。水生昆虫の格好の餌でもある。9mm。  
島根県益田市美都町小田又集落、きぬむすめ園圃にて2014.10.02採取



2014.09.29



1999.06.12

2000.05.23



以前お話を聞いた時とは違い、遠くを見つめて無言でいる時間が長くなったように感じられた。秀憲さんに義雄さんのことをあらためて伺った。

**秀憲**：随分前から言いよったんだけど、自分でまだ生活ができるから、やっぱり一人でやりたいのね。車に乗る間は「ええよ」と言うのだったんだけど。どうも去年の秋頃から車の運転に自信がないっちゃうか、免許の更新をするのを本人がためらったから、それじゃあ益田へ出ようよって言うんじゃない。私もこの春まで現役で仕事をしていたんで。看んとやれんけえ、自分を育ててくれた親じゃけえと思って。まあ、思い切って。認知がその頃から少しずつ入っていたのは解ってたけ、それで、去年の春頃から自分のアレ（退職）を考えて出しとったんで…。あっちの道路端の畑は自分で家庭菜園じゃないけど、毎週土日のどっちかあがって、オヤジの様子見ながら、草刈ったり、退職前から何年かやっていたんで。様子見に上がるついでに家（大田又）の周り草かってやらんと、自分でようせんので。草刈ったり色々するのにただそれだけで毎週上がるのもあれじゃけ、野菜作ったり。70代はまだ元気じゃった

け、（自分で）草刈り、やりよったよ。80代、段々弱って。やっぱりここで生まれ育ったけ、一番最盛期を知ってるし、もう、荒れてくんがやっぱり「寂しいー」っちゃう気持ちさすがあって。——仕事を辞めて、オヤジさんの面倒を見つつ、人生を切り替えたタイミングに、たまたま、僕らが会いに来てしまったと。

**秀憲**：そうそう。（笑）でも、この畑なんか荒れた状態だったのを、女房にいわせたら4月からようやくったね、って言うんじゃないけど。

——義雄さんっていうのは、どういう人だったですか？

**秀憲**：オヤジ？性格的には、自分から見ればすごい優しいつうか、まあ、ホント一生懸命朝早くから夕方まで、働きづめ。1haじゃけ、それぐらいせんとやっけてんかったじゃろうと思うんだけど。

——親の仕事ぶりを見ていて、自分も農業やるんじゃないかなとか思わなかったですか？

**秀憲**：高校の時は一時的ちょっと思ったんだけど、日本の農業が押されてくという、輸入品で下落したりいろんなリスクがあるんで、とても農業じゃ無理かなあって

いう…。うちも牛飼ってたりして、牛が好きって言うか、じゃけ、そっちの方向もちょっと考えとった。酪農。で放牧してっちゃう。思いよったんじゃないけど、まあ、それもあきらめて…。

——きつと農業があたふたしていた時期ですよ。いきなり消防署に入られたんですか？

**秀憲**：あれはオヤジの勧めで、とうとう、最終的には受けたんだけど。大阪に就職が決まっていた、とうとう断ってしまった。消防受かったけえ、「絶対残れ！」って言って。

——秀憲さんの世代って、就職難じゃない世代ですよ。

**秀憲**：うん。あの当時は公務員が人気がなく、なり手がおらんかった。（笑）

——でもオヤジさんとしては消防受かつたら、ここにたれと。

**秀憲**：おれと。

——今となっては、そこで引き留めてくれたことっていうのは…どう…

**秀憲**：感謝しております。

2014.09.29 録音